



日本基督教団 関東教区 埼玉地区第23回（2017年度）

# “アーモンドの会”開催レポート



日本基督教団 関東教区 埼玉地区の教会が中心となって開催している“障がいを負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会”である「アーモンドの会」。こちらの2017年度、23回目の会が9月に開催されました。ここでは、その開催内容をご紹介します。



会の冒頭では、安らぎに満ちた空間で参加者全員が讃美歌を歌いました。



- ❖ 主題：「障がいを負う人々と共に生かされる教会」
- ❖ 発題者：山野 裕子 牧師（久喜復活伝道所 牧師）
- ❖ 証者：山野 生 兄（社会福祉施設職員）
- ❖ 発題者・証者：金 福漢 兄  
（キム ボクハン・埼大通り教会 NPO 法人織の音アート・福祉協会施設長）
- ❖ 午後プログラム：グループ分かち合いの時



❖開催概要❖

<日時>2017年9月18日（月・敬老の日）  
午前10時～午後3時30分

<場所>日本キリスト教団 埼玉和光教会

## 障がい者と教会の関わりについて発題者・証者が壇上で発表

「障がいを負う人々と共に生かされる教会」と題された今回の会。発題者として久喜復活伝道所の山野裕子牧師が「障がい者に開かれた教会であるためには、“好意的無関心”というスタンスで彼らに接し、特別に意識しない方が、障がいを持つ方本人やその家族にもリラックスして来て頂けるのではないかと話されました。

続いて社会福祉施設職員の山野生氏が、「教会は障がい者から何らかの助けを求める意思の表明があった場合、過度な負担になり過ぎない範囲で必要な便宜を図る“合理的配慮”をするべきだ」と語られました。

最後は韓国から来日された金福漢氏が「キリスト教者として障がい者として異国に生きて」というテーマにて、脚に障がいを持つご自身の知的障がいを持つ方々を支援する生き方と、そこにある考え方を紹介。三者三様の発表をされましたが、そこに共通していたのは「大切なのは一緒にいること。これが何よりも理解を深めることにつながる」ということでした。



「自閉症などの障がいを持つ方々と礼拝」について、教会としての想いを壇上にてお話される山野裕子牧師。



「障がい者に開かれた教会であるために」などについて話が交わされた意見交換の場。

## 参加者の活発な意見が交わされた意見交換会

参加された皆さまの自己紹介タイムを含めた昼食をとった後は、各グループに分かれての意見交換がスタート。ここでは、各教会や個人が考える「より良く生きていくために必要なこと」や「未来への期待」などが話し合われました。最後は「グループ別発表」にて代表者の方が意見交換会で感じたことなどを参加者全員の前で話され、今回は閉会を迎えました。